

事務局	1. 開会 (1) 生涯学習課長 挨拶 (2) 自己紹介 教育長、教育委員、社会教育委員、事務局
委員長	委員長挨拶
事務局	会議出席者の報告 ↓ 議事を交代（委員長による議事進行）
委員長	2. 報告・協議事項 令和2年度部会の取り組み状況について 委員長より説明
副委員長	「コミュニティセンターと社会教育」部会長より報告 10月8日各コミュニティセンターの事務局と意見交換会の実施について ・先に準備として各まち協の事業活動の内容について資料をいただき、それを読ませていただいて、意見交換会で質問させていただくというような形式をとった。 ・各学区のまちづくり協議会において、地域において楽しむだけでなく、どこかで学ぶという活動をしていただいているということがよくわかった。 ・今年は特にコロナ禍ということで、事業が毎年のようにできてないところもあったが、各地域に応じた事業をされ、地域に応じた工夫をされていた。 ・当日質問させてもらった部分でもあるが、それぞれの悩みは後継者の発掘であり、事務局さんだけでなく、今現在の委員さんも役員さんも知恵を絞って、活動していただいているといった状況であった。 ・我々社会教育委員は、地域では我々が社会教育委員であることを誰もご存じない。地域のひとりの協力者としての立場で学区の活動には参加させていただいているが、社会教育委員として物を申せない部分については、言いたいなあと思っても言えない部分がたくさんあるので、そのへんはこれから解決していけたらと思う。 ・部会の名前が「コミュニティセンターと社会教育」ということだが、「コミュニティセンター」とは建物なので、「まちづくり事業と社会教育」というような名称にすべきではないか、というご意見もいただいた。
委員長	報告について、質問・意見を求める。
委員	・社会教育委員の認知度が低い。ほとんど誰も知らないというのがひとつの問題であると思う。自分は連合自治会から社会教育委員は選任という形で来ているが、自治会や市民の方はほとんど知らない。 ・社会教育委員はこういうふうな活動をして、こういうふうな任務を持っていますよ、ということ、もう少しアピールしていくことが大事で、こういうことを誰がしているとか、連合の会議やまち協の会議でひとつ配っていくとか、社会教育委員の知名度を上げるために、そのへんを今後何とかしたいと思っている。
副委員長	・意見交換会を始めさせてもらうまでに、市長部局のまちづくり協働課と教育委員会の生涯学習課とは、かけ離れて縦割りで、意見交換会をさせていただくのも市長部局の担当課に生涯学習課が了解を得てできないといった、歪というか、ちょっと面倒な部分があり、双方が連携をしていただく、縦割りではなく境界を作らないで連携していただくという仕組みを作っていただく方が良いのかなあというようなことを言いながら、10月8日は実現させていただいた。
委員長	質問・意見を求める。
委員	・私も同じように強く感じている。社会教育委員としての今までを振り返って、何

	<p>も実績をあげていないというのと裏表かもしれないので、大声では言いにくいですが、認知度というのは非常に、皆無に等しいというような状況である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今まで県や全国レベルとか、地域で行われる研修に参加して、方向性について話をたくさんいただいたのだが、実際に地域で、自分の住んでいる学区で社会教育委員として話をすることができないのが現実で、どこを出発点とするのかはわからないが、良い循環になって活発になっていくような方向がないものかと思う。 ・教育委員会の生涯学習課で社会教育委員の任命をいただいているが、どういう空気をもっと育てていくというか、それと今言われるように、縦に割れているというのがどうしても強く存在するのではないかという気がして、社会教育というものを市域として、どこが主体になってするのかというのが、課題となってきた。そういう状況を課題としてこれから詰めていかなければならないのではと、強く思っている。
委員長	質問・意見を求める。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・滋賀県の社会教育委員連絡協議会の研修会に行かせてもらって、良いことを言われて、肩の荷が下りたなあと思ったのが、社会教育委員の定義として「様々なことを知って、どう改善するのかを考える力を考える、地域の人たちと一緒に考える」ということを言われた。かしこまって地域のためにどんどん出て行くとかいうのではなく、今でも学校でも、学校ボランティアとか色んな方がおられて、それが本当の意味での地域の社会教育委員だと思う。 ・既に我々がやっていることが、社会教育委員という肩書でやっていることではなく、今地域でやっていることが社会教育委員としての活動ではないかとその時に思った。
副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・今おっしゃったことを私も滋賀県の研修会でお聞きしたし、私については普段は、地域の社会教育団体地女連という部分の中で、活動させていただいているが、審議会や委員会、生涯学習課や教育委員会の方が事業活動の報告とか色々していただいている部分の中で、評価させていただいたり、意見を申し上げる時に、社会教育委員として本当に正確なことを意見しているのか、と思うことがある。 ・社会教育というのは福祉教育を含み、当たり前のこととして自然的に体が動くとか、社会教育の一環としてそのような認識で人を育てていけたらと思っている。 ・各地域のまちづくり協議会で実施されている事業については、年齢層が固まらないように人権活動などをしていただいているが、事業の内容について、今後はどの部分に少し力を入れるべきかとか、どのようなことを補うべきかとか、検討いただくと良いと思った。 ・学校教育と社会教育では、社会教育の方が足りない部分があるように思っている。ので、これからの課題だと思っている。
委員長	「学校と地域の連携・協働」部会の報告について
委員	<p>「地域と学校の連携・協働」部会長より予定と報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本市の教育大綱に「ふるさとに愛着と誇りをもち」という部分があり、それを受けて、教育行政に5つの柱を立てている。昨年度はその中の「ふるさと教育」というところに視点を当て、ふるさと教育を進めていこうという話をさせていただいた。今年度は「コミュニティ・スクールの推進」ということを本部会でのテーマにあげさせていただき、その中で「地域と学校の連携」という事から、私たちはやはり地域をより良く知るべきだろうということである。生涯学習課の方で「ぶらり八幡」などを実施しているが、この部会としては、中央公民館講座のどこかの講座に参加をしようと考えていたが、コロナ禍の中で講座自体がオンライン開催などに変更され、人を集めての講座が実施できなかった。が、2月6日に宮ヶ浜にて水鳥観察会を開催されるので、本部会の部員の皆様のご参加をお願いして、その後、コミュニティ・スクール等についてお話できたらと思うので、本部会で

	<p>はこの水鳥観察会の方へのご参加をお願いしたい。</p> <p>沖島小学校オリエンテーリングの報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖島小学校は今年から学校運営協議会、コミュニティ・スクールを導入し、その中で漁業組合長やまちづくり協議会の会長、離島振興協議会の方から地域の駄菓子屋さんを訪ねようというようなコンセプトで、何か地域の方々と学校とのふれあいができないだろうかという提言をいただいた。 ・「地域をよりよく知る」という部分で、沖島小学校の児童は船で堀切から沖島まで来て、その後学校へ徒歩で行くが、地域にあるお店を訪ねて行くという事は今までなかった。そこでこのようなオリエンテーリングを計画させていただいた。 ・（地図を参考に）学校をスタートして、漁業倉庫がゴール。いくつかのポイントを回って、そこでお店の方々と児童たちが話をしながら、「これはいいなあ」、「ちょうだい」とか、「これはおいくらですか」とか、そのような形で約1時間半ほど回らせていただいた。 ・小学校の子どもが沖島のお店を訪ねて買うということが、これほどまでに地域の方に喜んでいただける事を、今回知って、実は今週第2回のオリエンテーリングを実施した。第2回はお寺の本堂に上がってお経を聞いたり、神社を訪ねて由緒書きの文章を読んでもくるとか、そんなことをさせていただいた。 ・地域と学校の連携ということの大きな中に、近江八幡に住んでいる私たち、近江八幡で働いている私たちが、近江八幡の事をより良く知って、そのことを子ども達や学校に伝えていけるということもコミュニティ・スクールの大きな役目ではないかなと思っている。 ・これが発展していき、それぞれの学校運営協議会が市の教育委員会に、本日おられます教育長や教育委員の皆様、自分たちの学校はどのように地域とつながって、今後どういう方向に進んでいきたいのかというのを伝え、教育委員会の方からのご意見ご協力をいただくといった方向に進んでいくのではないかと思います。
委員長	報告について、質問・意見を求める。
委員	第1回目をされた時に子ども達がどんな喜び方をしたか、わかったら教えてほしい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・私としては、そこで買ったものをその場で食べたり、お店の人とワイワイと話ができ、会話が深まると良いかなと思ったのだが、そこまで進めなくて、買ったものは持って帰らなければいけないみたいな感じでした。そこにもうちょっとお店の方とのふれあいを、次回行うことがあったら「こんなことを質問してみたら？」とか、そのようなこともあればよいのではないかなと思った。 ・今回は行ったところで「自己紹介をください」と、「私は沖島小学校の何年の誰です。私の夢はこんなことです」というような自己紹介をして、お寺さんとか神社さんと交流を深めるという形を取らせていただいた。地域の方と子ども達が気軽に話せて、顔見知りになれたということが一番大きな成果だった。
委員長	質問・意見を求める。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・12月12日に市の主催の親子で探る体験ツアーというのに参加させてもらった。3つのグループに分かれて、それぞれ3つの八幡のお店を親子でめぐって、そのレポートを集めて、午後に子ども達がまとめて発表するという1日であったが、先ほど部会長がおっしゃっていたように、こうやって学校単位でされるのって、すごいなと思った。 ・やはり近江八幡に住んでいるのに、こんなお店があるというのを知らない部分が私も多くて、そのこだわりや思いを大事にされている方々の話を聞いて私もすごく感動したり、子ども達も子ども達なりの感じ方がすごくあって、1年生の子どもとかでも発表できるのかなと思っていたが、それぞれ感じたことがあったみたいだった。校外学習でも遠方に行くのもいいけど地元、例えば八幡堀の所とかに行って、そこからグループ行動みたいにして、お店を訪ねてそれぞれお話を聞くっていうのもすごく良いなあと思話を聞いて感じた。

委員長	<p>3. 近江八幡市教育長・教育委員の皆様との意見交換 テーマ「学校と地域の連携」に関して、情報提供いただく。 意見等を求める。</p>
副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の小中学校の校区には地域性がある、児童数が1000人近い学校もある。 ・例えば、田んぼの学校というのがあって、学習の場として5年生が体験される。 ・お手伝いに農業委員や農協職員が行く。田植えと稲刈りと両方体験するが、事前学習は学校でされて、実際に田んぼに入った時に色々と教えてあげたいことが沢山あるが、児童数が多く、朝の9時から12時半くらいまで、5クラスあったら5回することになるので、色んなことを教えたいけど教えられない。学校と地域については、授業が地域・校区によって違うので、全体を見るという時に課題を感じている。
教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は教育課程が変わり、地域との連携はもちろんのこと、教科書も変わったので、本当に様々なことが大きく変わってきた。 ・地域の連携と同時に授業数が大幅に多くなり、コロナ禍ということで、今年は苦勞したが、近江八幡市は教育課程が、国がどういう方向に持って行こうとも、ふるさと学習というのを大切に、そのためには地域の連携が絶対に必要だということでご支援をいただいている。 ・例えば今おっしゃった、田んぼの学校とか、やまのこ学校とかフローティングスクールとか、色んなものが県かあるいは国からやれというのがあるが、今年はこのコロナ禍で、フローティングも宿泊はなくなった。やまのこ学校という、近江八幡市は多賀町の高取山を使うよう県は言うが、近江八幡市は沖島にケンケン山というところがあり、この沖島を知らない子ども達がいるということはおかしいということで、4年生でやまのこ学校として、沖島に渡って、沖島の子ども達と交流しながら沖島の実態を勉強していこうということをしており、それは環境学習や地域の学習にもなる。 ・高齢化が進んでいる中でも特に沖島は今進んでいて、子どもが全くいない。今年児童が十数名いるが、島の子は誰も今年はいない。今まで1人でもいたが、全くいない状況なので、近江八幡市は独自に弾力化制度というのをやっている。例えば、先ほどおっしゃったように、ある学区ではすごく子どもがいるが、大きな学校から小さな学校へ弾力化という制度を使ってもいいですよ、ということで、例えば、今逆の意味で話題になっているいじめとか、不登校の子ども達もそういう制度を利用していいですよということで、他市からも沖島には来ている。今年野洲から、来年は彦根からというふうにも聞いている。 ・色んな状況を踏まえて、子ども達が一番過ごしやすい環境の学校、しかも地域から支えていただく学校ということで、学校によって取り組みが若干違うところもあるが、それはそれで僕は良いと思う。この前、ある議員さんから議会で質問があって、その地域で活動いただいている委員さんがおられて大変恐縮だが、ある小学校で食品ロスを防ぐために給食の残食を色々と加工して、それを肥料にして、学校菜園に撒くという取り組みをしている。すばらしいことだと思うが、これを是非どの学校でも、と一生懸命言ってくくださるが、環境学習というのは、食品ロスだけではなくて、例えば、自然豊かな環境をいかに守っていくか、というのを、ある小学校だと地域の方が盛り上げた八幡堀をどうしてこれから守っていくかということに取り組んでいる。また別の小学校ではエディブル・スクールヤードという、何年か前にアメリカの方が来られて、自分達で学校で畑をがんばって作ろう、それを刈り取って作ったり、調理したりして地域の方に食べてもらおうと、これをずっと続けていこうという取り組みをされておられる。また別の学区では、色んな歴史遺産があるので、少しでもこれを守っていこうという取り組みをやっておられる。だから、やっぱり地域の方々の応援もないと、全ての環境学習を、例えば食品ロスにするということは、それはすばらしいことだが、各学区特色があり、しかも地域の応援もあるということで、それは学校独自にお任せしている。できれば全学校でやれということで、出来ることはさせてもらう。例えばコロナ

- 禍の中で子ども達のお休みとか、あるいは出席扱いとかそういうことについては統一するが、独自の地域性というものを大切にしていって取り組んでいくこともある。
- これだけの授業数の増加や OECD の点数化において足りないことへの懸念、そんなことで、本当に教育課程で子ども達を過密にしているのか。近江八幡というのは、全国学力学習状況調査というのがあって、その中で状況を調べてみると、毎年群を抜いて全国で優れていることがある。それは「地域の行事が楽しい、大好きだ」という子どもが圧倒的に多いことであり、これは滋賀県も全国に比べたら高いのだが、その中でも近江八幡はダントツに高い。それは地域の方が子ども達を中心に一生懸命巻き込んでいただいて、自分たちの学区を子ども達に夢を託すためにいろんな取り組みをしていただいていると思うので、素晴らしいことだと思っている。
 - コミュニティ・スクールというのは、今まで学校評議会というのがあったが、評議会というのは学校お助け隊みたいな感じで、学校の行事などを地域が応援するという形であった。学校運営協議会とは、例えば、学校が来年教育課程をこんな風に考えています、と校長先生が提案する。そのことに対して地域の方々から、それはダメですよ、ここをもっと考えましょう、ということをして学校と共に地域の方々が考えていくという形になる。
 - 国を通して算数の時間は何時間とか英語科を取り入れなさいとか、ここにおられる全ての方の小学校時代と今は本当に変わっている。私もついていけない。ずいぶん変わってきたが、それも大切だと思う。でも、昔から大切にしてきた不易と流行の不易の部分、決して変えてはいけない地域を大切に思う心、ふるさとを大切に思う心は、今も脈々と続けていくと私は思っている。その事は子どもが誰よりも感じてくれているのか、地域のお祭りに行くのが好きだとか、あるいは地域の行事に参加することが大好きだということが圧倒的に多いのは、本当に素晴らしいことだと思っている。
 - 最近特に思うのが、ヴォーリズさんのことで、明治の末の方の時代に日本にいられて、八幡商業高等学校の英語教師からスタートされて、もちろん布教活動が中心だったと思うが、建築に関わったり、地域の医療に関わったり色んなことをされた方で、私が一番素晴らしいと思うのは、明治の時代に青い目の方がいられて、それを受け入れた八幡の町民衆の存在だと思う。今コロナにちょっとかかったら、どこの家の誰や、こっちへ来るのかというような電話が教育委員会にいっぱいかかってきているのに、ただそれを受け入れて、全然違う宗教のキリスト教を布教することに協力した町民衆が近江八幡におられたと。やっぱりそこが近江商人が全国に活躍したひとつでもあるのかなあと思ったりもしている。
 - 子ども達のために一生懸命やっただいて。社会教育委員さんもここにおられる教育委員さんも、一生懸命やっておられるが、時として本当に子どもにとってそれがいいのかどうか、と僕もよく自分でそう思う。僕の言っている事は本当に子ども達にとって、これからの近江八幡市を担っていってくれる長い人生の中で、僕の言っている事は本当に正しいのだろうかと思ったりもあるのだが、確かに時代は変わってきて今コロナ禍の中で皆大変な思いをしているけれども、大変な思いの中にやっぱり勉強しなければいけないこと、大変な思いの中でもできる事があるような気がしていて、こんな時こそ、本当に近江八幡市民が、特に支えてくれる地域の方、いわゆる大人が模範となつてがんばる時かなと思ったりもしている。
 - 誰一人として子ども達を悪くしようと思っておられないと思う。これが良いこれが良いと思っただいのは確かなのだが、やはりその後ろ姿は子ども達がしっかり見ているという意識を、地域の方も保護者の方も先生方も、いつもそれを意識して活動していくことが大切だと思っただい。私もそうだが、果たしてこう言っただいことが子ども達の未来につながるのか、ふるさとふるさとと申して、彼らを縛っているのではないかと。ふるさと大事だけれど、彼らの能力はおそらくこれからこの近江八幡だけではなくて、日本中あるいは世界でも活躍する、ひょっとしたら宇宙に行く子どももいるかもしれない。ふるさとをいつも胸に思いながらも、そういうふう伸びてくれる子を、ということが大きなことだと思っただい。

- ・国が OECD に関して、理科が弱い、算数が弱いという。弱い事は、学習が苦手な事はその人間がダメという事ではない。例えば、先ほど会長のお話の中で特別支援教育が出てきたが、それは僕は個性だと思っている。例えば、特別支援教育の研究が深まったことで、多くの子ども達が、特別な支援が必要な子はたくさんいるけれど、それは私達の時はそんな見解がなかったのだから、僕らの世代それ以上の世代の方は、養護学級と言って、「なんかあそこの学級行った子なんや」という変なイメージ、いわゆる偏見を持った方々はまだまだいるので、そうではなくて、その子にとって一番ふさわしい教育をしていく。それは特別な支援を必要とする子どもだけではなくて、通常の子ども達にも絶対に支援は必要なことで、そんな意味で 100 人いたら 100 人に同じ授業をしてはいけないという時代がやってきた。
- ・僕らは 45 人とか 50 人の隙間のない中で一緒に座って、おとなしくして先生と過ごしてきた。手を挙げて手を挙げられてなかったら、「なぜ、わからないのか」とか言われながら、黒板の板書を写したりしてたと思うが、そんな時代ではなくなってきた。GIGA スクール構想は、国が一斉に早めにスタートしてくれて、うちはタブレット等も揃った。近江八幡は、GIGA スクール構想で少し早めに取り組んでいたのだから、多分 3 学期からできると思う。子ども達がそれで無限の力を発揮してもらえるように、これからも取り組んでいきたいと思うが、これが正しいと言い切れない部分が教育かなあと思ったり、これだけ予算をかけているのに費用対効果はあるのかと言う議員さんもいる。つまり、これだけ予算をとってタブレットを 1 人ずつ用意したら学力は上がるのかと。学力が上がるのも 1 つ大事だと。でも家に帰って、お父さんお母さんとしっかり友人の事とか、自分の趣味とかそんなことを話し合えるそういうことも大切だし、一概にこれだとは言いきれない部分もあるし、不登校の子ども達もタブレットが入ったら、ひょっとしたらそのリモート学習で、オンラインでつなげる、そこまではやってくれる子が居るかも知れないし、残念ながらそうはいっても部屋さえ入れてくれない子どもさんもおられる。お父さんお母さんが家にも入れてもらえない、そんな不登校のおうちもあるし、それぞれあって僕はいいと思うけれども、基本的に言っているのは、子どもの顔を見て来ること。それは絶対だと。一瞬だけでも見てこなければいけないと。彼が本当にそこにいるのか、それは最低限見つけてくるようにと。後は個々によって違うというようなことをお話ししている。
- ・教育というのが一番、1 たす 1 が 2 でないような気がしている。他の一般的な産業とか、市の色々な行政があるが、2 の子もいれば 2 に満たない子もいるし、1 たす 1 が 30 くらいになる子もいると。だから僕らの感覚で学校へ毎日来て、元気に健やかに活動して運動もして、地域ではボランティア活動や地域の行事に参加して、そういう子もいる。でも、それが苦手な子もいるし、大人になってやっと気づく子もいる。僕は中学校で教員をしていたのだから、ずいぶんいろんな子と出会った。卒業式にあれだけやんちゃしていた子が涙を流してたり、それだけで僕はもういいと思うこともあった。20 歳になって成人式で暴れるという子もいる。自分の子どもができて初めて「先生やっとなかった」という子もいる。残念ながら、未だに目があっても知らん顔している子もいる。それでもこっちから頑張って声をかけたりしているが、何が正解かというのは本当に難しい問題で、社会教育委員さんあるいは公民館運営審議会の委員さん含めてだが、できることを関わっていただくという形で、あまりこうしなければいけない、ああしなければいけないというのは私は特に思っていない。
- ・教育長の中には点数を上げることに生きがいを感じる人もいる。すごい町もある。その町の子ども達は夜中でも塾に行っている。それがいいのか悪いのかは分からない。そういう町もあるし、うちも 12 の小学校があつて、全国平均に達している学校もあれば、残念ながらもうちょっと足りないなという学校もあるが、だからその子ども達が悪いという問題ではないので、その辺をご理解いただけたらなと思っている。
- ・やっぱり 100 人の子どもがいたら、100 人の個性があると、ご兄弟でもそうだと思うし、お孫さんを見られてもそうだと思う。お家の中でもそうだと思うので、その辺をご理解いただいてまたご意見をいただければと思う。

教育委員

- ・「早寝・早起き・あき・し・ど・う」、今さらもう説明させていただく必要はないと思うが、これが1つの教育の進む、地域と教育委員会と家庭が具体的に進んでいく1つの表れではないかと思う。ぱっとお母さんに出会った時に「あき・し・ど・う、どう？」と聞くと、「ちゃんと朝ごはん食べてるわ」、「挨拶してるわ」、「ああそうか、いいなあ」というようなことが、先生だけではなく地域の人も含めて日常会話の中で、そういう関係性ができていることがすごいなあ、素晴らしいなあと思う中で、今日は初めてこの会に参加させていただき、それぞれの団体、地域に関わっていただいている代表の方に出させていただいて、色んなご意見を出していただいて、例えば、大きい学校やったら、せっかく行っているのに、時間は無い、成果は上がらない、というそういう課題があるということ、生涯学習課を通じて教育委員会のほうに伝えてもらう、じゃあ学校として何をしたらいいのかという、そういう関係ができればと思う。
- ・地域と学校というテーマという事で、今委員長から今いろいろ課題を出していただき、世の中が変わっていく中で学校だけではできない、家庭だけでも子育てはできない、ましてや隣の子を放っておいてもこれからの教育は進まない、地域がなければ子どもが育っていかないけれど、明らかにそうなる中で、お互いの思いを1つの土俵の中で出し合うというのが、今進んでいるコミュニティ・スクールという、ひとつの大きな土俵であると思う。
- ・学校行事は、私が勤めていた頃を含めてある時期までは、学校の先生が企画して子どもを動かしていた。ところがそれが上手いかなくなってきて、地域の方々も子どももお客さんになってしまった。例えば「明日ちょっと寄らせて欲しい」となると、「学校から子どもさんが来るし、どうしよう」と、当時は地域の方々もそういう感じだった。今はその前に先生方がまず地域に出かけて、先程の沖島小学校の紹介にあったように、あんな事は1日でできることではないので、事前に学習や準備をしてそうやってつながっていたと思う。学校が何かすればいいのではなく、地域の方々に事前に知ってもらって、まず先生と地域の方々がつながりを持って、それが子どもの教育にもどんどん広がっていて、いろんな成果をあげてもらっている、これがまさに地域と学校の連携のひとつの表れだと思う。
- ・私なりの地域と学校の連携の最終的な目標は何かというと、例えば、今地震が起こったとする。子どもが帰ってくる。その時に、学校は、地域は、家庭は、子どもの安全を守るためにどう動きができるのか。例えば、学校で地震があったら、とりあえず机の下に隠れましょう、さらに校内のどこかに集合して避難しましょう、今まではこの地域はその程度で、今日までの災害は乗り越えてきた。東日本の大震災のことを、ある校長先生と話すことがあった。あちらではいつ何時災害が起こったときのための完璧なマニュアルができてあって、地震が起こったら集合させて、最終的には家庭の人に子どもを引き渡す、家庭の人が来られなかったら、先生がしっかりと学校でその子を保護して、来られた人に引き渡す。大震災の時、学校はマニュアル通りにしなければいけなかった。地震が来た。子ども達を親が迎えに来た。一部の子は学校で保護していた。家に帰ったら、次に津波がきた。津波がある事は想定内だった。絶対津波が来ると。ところが、海岸から1キロ位までの津波を想定されていた。実際その学校があるのは、その海岸から5～6キロのところ、様々なマニュアルがしっかりと作ってあって、津波がまさかそこまで来るとは誰も思っていない。そこに津波が来て、家まで帰った者が次の津波で命を失ったという、これが非常に辛い。マニュアル通り子ども達を指導してきたはずなのに、尊い命がそういった形で亡くなったという、それがとてもやりきれないという、あの辺の先生方は危機管理に対する意識が本当にすごいと思うが、そんな中でそういうことが起こった。そういうことが起こった時に、まさに地域と学校の子どもの命を守る連携がそこに示されてくるのではないか。極端な考えだが、そういう時に地域と学校がどういう動きができるのかということを探っていくのも、ひとつの大きな地域と学校の在り方かと思う。

教育委員

- ・私は近江八幡の生まれではなく、長浜市の生まれである。長浜市というと、ご存じの方もおられるかと思うが、曳山祭りというお祭りがある。主役は小学校の子

	<p>ども達で、何をするかというと、子ども歌舞伎というものがあって、私はこの子ども歌舞伎に3回ほど出させていただいて、今も恩返しのつもりで、お祭りの時期になると、実家の方へ戻ってお手伝いをさせていただいている。私は今、44歳で、誰に育てていただいたかということ、地域の方に育てていただいた。別にうちの母親や父親が育児放棄していたわけでもないが、近所には怖い雷親父もいたし、口うるさいおばあちゃんもいた。そんな方々から色んなことを聞いて、こういう事したら他人さんに迷惑がかかるからいけない、というようなことや、お祭りで特に習ったのが礼儀正しくする、人と会ったら「こんにちは」、寝る前には「おやすみなさい」、ご飯を食べる前には「いただきます」、ご飯を食べ終わったら「ごちそうさま」、自分で食べた時に使った食器は自分で持って行く、こんなことを教えていただいた。これも父親母親にも教えてもらったが、父親母親が言うことは結構耳が痛い。うるさいとその頃は思っていた。でも、地域の方々に教えてもらうと、「ああなるほど、そうなんやな」というふうに素直に聞ける自分がいて、これが本当にふるさと教育そのものだと思っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育長がおっしゃっていたが、私は特別数学も点数が良かったわけでもなく、国語の漢字はいまだに誤字脱字がものすごくあるし、たまにすごく簡単な漢字が思い出せないということもある。けど、何とか44歳まで生きて、生活させていただいているということを考えると、やはり学校のテストの点数だけが全てではないということを感じ次第で、本当に地域で教えていただいたことというのはいまだに私の生活の中でも癖として残っている。 ・よく言われるのは、瞬間が習慣に変わる。その時はたった一瞬のことだが、一瞬をずっと積み重ねていけば習慣になる、ということもあるので、先ほどの沖島のオリエンテーリングの活動の中でも、今回2回目をされて、お寺、寺社仏閣をまわられたということだったけれど、これは1回、2回で済まらずに是非習慣づけていただきたいと思う。 ・学校によって当然規模も違うし、というお話をいただいたが、まさしくその通りだと思う。紹介にあった沖島小学校でできたことがなぜ規模の大きな学校でできないのか、というのではなくて、それでは規模の大きな学校では何ができるのか、その地域の特性にあった物事に照らし合わせてみて、こんな事ができるのではないかと、人数が多いけれど、多いのを逆手にとってこんなふうにやってみてはどうだろうか、というものがあれば、何らかの解決策が見いだせるのではないかと思っている。 <p>委員長 質問・意見を求める。</p> <p>委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私は中学校で地域学校協働活動推進員をさせていただいており、現在感じていることなど、少しお話させていただければと思う。 近江八幡市内は私のような者が市立の幼稚園、小学校、中学校には全て配置されている。学校の先生というのは、3年から4年で異動されるが、毎年やっている事業について、推進員が異動してきた先生に「昨年度も実施していた地域の方とやっている事業を今年度はどうしますか」と尋ねて、その先生が「もう止めておきます」と言われれば、その事業はそれで消えてしまうということがあり、推進員は「その事業をやってください」という立場ではなく、先生のお手伝いをさせていただくという立場なので、自分がいいなあと思っても、先生がこれはちょっとできませんと言われたら、そこでおしまいになってしまう。良いことなのになあと思っても、先生に負担をかけるわけにはいかないのだから、そこでおしまいになってしまうということ、推進員の中で色々話していた時期もあった。 ・コミュニティ・スクールになって、何がよくなるのかということは、今日も先生と話していたら、「こんなことがしたいです。安土にはどんな活動をしている人がいて、どこに行けばいいですか?」、「コミセンの人と喋りたいんですけど、どうしたらいいの?」とかいう話になったので、本当に若手の先生は特に地域のことを全然わかっておられないということがわかった。先生方は思いがあって、学びたいなあと思っても、それを上手く探し出す余力もないというところが現状なのかと思う。でも、3～4年くらいで異動されるので、校長先生くらいが多分、
--	---

	<p>地域の方と一番よくコミュニケーションをとっておられるので、どういう団体があるのかをわかっておられると思うが、コミュニティ・スクールになって、地域の方が学校運営に関わることで、学校の活動をよく調べて、これは残していきましょうということが話し合いで決まれば、先生方が異動されても、それを続けていかれるというメリットがあるというのが一番大きいことだと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実際学校の先生もコミュニティ・スクールについて、どうしていけばいいのか非常に悩んでおられるし、地域の力を入れるのはすごく嬉しいけれども、たまには地域のパワーがあり過ぎて、学校がどうしようと思う時はどうしたらいいのかといった不安も実際感じておられるように思う。そういう現状というのを、私達、社会教育委員や教育委員の方々が、色んな立場で知って行って、仲裁ではないが、状況を客観的に見れる立場にあると思っている。社会教育委員としてそういうところを上手く、他の学校を見学させていただいたりして、様々なやり方をそれぞれが知って、地域の学校で上手くフィードバックできるようになったらいいのではないかと考えている。
委員長	質問・意見を求める。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育長が言われたある学区の残食の件については、ひとりの人にもものすごく力が入っている。是非とも八幡で名をあげたいという思いが強すぎて、そういうふうな言葉になっていると思う。残食のコンポスト化というのは、元々ゴミを出さない、出したからこうなっていくので、学区としては、ゴミを出さないことが第一ですよ、というのが根幹になるので、そこをはき違えないようにとは言っていた。 ・ コミュニティ・スクールになる中で、地域としてどのようなことをやっていくか、先ほど言われたように、提案してもできないとか、地域として全部特性があるので、まず学校として、校長先生がどんなことを来年したいのかということを経験的には出してこられる。それについて、地域としてどれだけできるか。地域というのがみんな多分高齢者、ボランティアをしている人、という概念があって、それはちょっと違うと思っている。 ・ 中学生であれ、地域にいる高校生であれ、大学生であれ、社会人であれ、ある程度そういう方を集めるというのはなかなか難しいけれど、中学生、高校生、大学生、というのであれば、学校に声をかけて、というのができる。そこで、土曜日、日曜日というのであれば、そういうふうな学生が喜んで来る。校外学習や社会教育というのはどこでも進めているので、そういうところをもっと活用できないかと思う。 ・ 市の方は管轄である小学校と中学校しか考えない。しかし地域の社会学習というのは生涯学習というのでも、赤ちゃんから死ぬまでが生涯学習ではないかと。そこで線を引くというのにもものすごく抵抗がある。教育長にお願いしたいのだが、小学校区など決められた管轄の中で、県立高校とか県立大学とかの人材をもう少し入れてほしいなあと。地域には素晴らしい高校生や大学生がいるので、地域の力として育てて行って、将来すばらしい大人になるということをお願いしている。垣根を越えてちょっとお願いできたらなあとと思っている。 ・ 高齢化から少子化になってきていて、僕らの年代が今地域で働いている年代だが、もう15年したらもう80代になって動けなくなったら、地域の力が色んなところで必要になってくる時代になってくる。子どもが小学生のときは、お兄ちゃん、お姉ちゃんという存在はものすごく親しみやすい存在であるので、高校や大学との連携を今後お願いできたらなあとと思っている。
教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 委員のおっしゃる通り、教育委員会は学校教育に集中しがちだが、これを担当している生涯学習課が本当は一番忙しいはず。一生涯なので、高齢者を含めて、全部を対応していかなければならないということで、本当は生涯学習課がこんな仕事量ではなくて、もっともっとこれからしていかなければならないと思っている。 ・ 人材を探していくのも生涯学習課を中心に、教育委員会がしていかなければならないと思うが、学校も行政も、働き方改革というのができて、子どものために尽力するのと同様に、それぞれの先生方、あるいは行政の職員の方々の家庭もある。

	<p>自分自身が古い考え方でやってきたことが、反省するとそっちも大事なかなと思う部分もあるのだが、もう少し人を増やすとか、学校も含めて生涯学習課の課員ももう少し多くするということが、教育委員会だけではなくて、全ての行政の職員が同じように思っているという中で、ICT化が進むと職員数はこれから益々減ってくるし、今まで一番力になっていた人と人とのコミュニティの関わりが、少なくなってくるように思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> • WEB 会議を前に経験したが、表情は見えないし、たとえどんな状況でマスクしようとも遠いところでも、やっぱり対面式だと思った。やはり昭和の人間なのでそう思うのかなあと。うちの息子は東京にいるが、2月から3回しか職場に行っていないと。それで十分できると言う。教育と関わる名前のつくものは、本当にそれでは難しいような気もするので、そんなこと言うと、パワハラとかセクハラとか何やらハラスメントと言われるのをわかっていながら、何とかできないかなあとというのが正直な悩みとなっている。 • 生涯学習というのは亡くなる寸前の方までの教育を自分自身にさせていただくこと、その人の力を活用させていただいて、学校教育の対象となる子ども達にさせていただくこと、あるいは、今色んなところに関わってくると思うが、そのこの開発が弱いと確かに私も思っていて、何とかしたいと思うが、また良い知恵があったら教えていただきたいと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> • 20数年前になるが、PTA 会長をさせていただいた時に、その年の私の PTA 会長としての目標は、PTA 事業を減らすことですよということを校長先生に言ったら、「待ってました、それが一番ありがたい」というようなお話をいただいた。PTA の事業というのは、増えることはあってもなかなか減らない、学校の方から減らして止めてくれとはなかなか言いにくいということで、そちらの方から減らすという目標は非常にありがたいという話をいただいた。 • 学校と地域の連携ということで、うちの学区の場合は学校の方からお声かけをいただければ、協力はさせていただくけれど、まちづくり協議会の方から学校へ直接働きかけることはまずない。PTA さんにも働きかけることはない。子ども会さんには働きかけることはあって、この間も文化祭が今年は展示だけにしたので、子ども会のお母さん達と相談して、北里の文化財・文化を知ろうウォークラリーということで、朝鮮人街道、朝鮮通信使とか小田神社とか至誠学校とか、そういったところを回るようなイベントをして、参加者は60人くらい、参加賞にはお菓子の詰合せを、とかいうことがあったが、参加していただいて、それはそれで良かったのかなあとこの思いをしている。 • 先生方は大変お忙しい状況で、学校の方に地域と連携する余力というのはどの程度本当にあるのかというような思いがしている。
教育長	<ul style="list-style-type: none"> • 今一番困っておられるのが、PTA 会員に入らない方が出てきたこと。大きな学区では自治会に加入しないということもあるようだが、PTA 会員についても同様な事態が発生してきている。 • PTA の事業をしていただくのも、大切なことのひとつだと思し、PTA の活動に参加して、保護者と保護者のつながりや地域の応援を実際に知っていただくということも大切なこと。 • 小学校なら各行事に PTA の方が手伝いに来てくださる。例えば運動会だと PTA の方がテントから何から何まで。僕は中学校現場で大半勤務していたので、そういうことは中学校の職員がするものと思っていたら、1回だけ小学校の校長として勤務していた時に、こんなに助けてくださるのかと思って、色々な意味で先生方をお助けいただいたし、それだけのことを学校から PTA にお願いしていた。 • 逆に PTA の事業を減らすとかいうことも、学校が考えるのがいいと思う。保護者として協力していただくこと、PTA の役員さんとして協力していただくこと、色々な形があってもいいと思う。 • 今回卒業式も PTA の会長をはじめ誰も来賓はおられないと思う。そのように学校でお願いした。市議員にもお断りした。今回はコロナ禍という特殊な事情の中で、実際近江八幡はとにかく地域の方、各学区の地域の方に本当に応援団として

	<p>やっけていただいている。ある市ではPTAでしか協力してもらえない、地域との関係は全くないというところもあると聞いているので、僕はPTA活動というのは本当に大事だと思っている。校長先生はPTAにたくさん呼び掛けられると思うし、校長先生も色々おられるが、子ども達のことを一生懸命考えているのは確かで、一番良い方法を校長先生がこれから、今後コミュニティ・スクールという形で地域の方のお知恵も借りながら、取り組んでいこうという流れになってくると思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の人事も例えば、「〇〇先生をどこかに連れて行ってはいけない」というのはダメだが、例えば、これから環境教育のこういう事をやりたいとコミュニティ・スクールの学校運営協議会で出てきたら、環境教育に強い先生を配置することはできるようになる。そういう形で、学校運営協議会というのは学校をどういう方向に持って行くか、校長の思いと地域の思い、PTAを含めて、ひとつにしていこうというねらいがあるので、そういう方向に進んで行ったらいいと私自身思っている。 ・個人的には校長先生の思いがそれぞれあると思うので、全てがその通りとは限らないと思うが、その辺をご理解いただけたらと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育との関連の意見がたくさん出ていて、本来の社会教育委員としての立場での意見がほぼ無い。あくまでも社会教育委員というのは、今現在、定年退職して家におられる高齢者とか、学校教育と全く関係のない立場におられる人たちに対して、どういう方向性をもって今後社会教育を動かしていくのかということを考える場ではないかと。今までのご意見を聞いていると、学校教育に絡むあるいは学校との関係についての意見が沢山出てきたと思うが、本来の社会教育委員というのは、社会から遮断されてしまっている人たちに対して、どういうことをしてその人たちを社会に活かせるかということを審議するのがこの場ではないかと思う。いつも聞いているけれど、その辺はいかがなものか。
委員長	<p>私への質問ということでよろしいか。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ご意見を言ってくれというのではない。 ・今の高齢者がどのような姿であるとか、目の前にして考えた場合、私自身が生涯学習インストラクターの会として動いているのは、家に独りでおられると、声をかけても出てこない。毎日何をされているのかということ、テレビを見て、お茶を飲んで、ゴロゴロして、いつの間にか体も弱って、そういうところに介入していくのは非常に難しいと思うが、ひとりでもふたりでも自分の近くの人達とちょっと体を向けて、世間話をしてあげるとか、こういうこともひとつの社会教育委員としての仕事ではないかなあと思うのだが、どうしても学校関係を中心とした話題になりがちだと思うので、できれば、現在の地域をどういう形で、もっともっと元気にしていかないと、というところを社会教育委員としての課題ということを前提に意見交換ができると良いなあと思いながら、聞かせていただいていた。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育とは、確かにおっしゃっていただいたように、それもひとつの大きなテーマだと思う。したがって、部会も二つに分けてしていただいているのも、そこに理由があることをご理解いただいていると思う。 ・今日は、教育委員の皆様方にお越しいただいているので、去年もお話させていただいたが、近江八幡は教育委員会の中に生涯学習課と学校教育課などがあり、その中で両者の関係性がどうなのかということがあろうかと思うが、私がいる長浜市では、生涯学習課は市長部局に入っており、教育委員会とは異なるので、そういう意味では教育委員の皆様方との意見交換というのは非常に意義があるものになっている。普段接触していないので。ただ、ここは教育委員会の中にあるので、では両者の役割の違いは何なのか、そういうことが出てくると思うが、今日は申し訳ないが、「地域と学校の連携」ということで進めており、テーマを絞らせていただいているので、ご了承いただきたいと思う。 <p>再度、意見を求める（意見なし）。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 色々なご意見を頂戴し、私も皆様方からいただいたご意見の中で、特にふるさとについての学習というのは、近江八幡市の大きな特徴ということで、これは非常に大事なことだと思う。 ・ 特に情報技術学習、タブレットをひとり1台ということで、これから学校教育課と進んで行くと思うが、あればこそ、なおさら、そういったものとの関わりのあまりない、自然とか色んな地域の色んな文化など、そういったものに直接こう触れ合うことの必要性が増してくるのではないかと、私は思っている。情報教育、情報技術教育だけ進めるというのは、私は偏った人間を作ってしまうのではないかという危惧を持っており、もちろんできるに越したことはないが、それが子どもを育てるとは思っていない。むしろ自然の中でのびのびと地域の文化や伝統を吸収しながら育っていくというのが、本来の在り方ではないかと思っている。後者の部分で、社会教育委員の皆様方は今現在でも色々な形で関わっておられると思うし、今後もその役割は大きいと思っている。 ・ 社会教育委員というその職に肩肘を張らず、今皆様方が行っておられる活動そのものが社会教育委員としての活動だと私は思っているので、出来ることに関わっていただくことが一番自然で、かつ本質的な合理的なものだと私は思うし、今後もし取り組んでいただければと思っている。 ・ 地域でしていること、そのものが社会教育委員の活動である。そのあたりを今日色々なご意見をお聞かせいただき、また、教育委員の皆様方からも色々な貴重なご意見をいただいた。それぞれが互いに色々な点で、共通認識、情報共有をしていただいたと思う。今後ともこういう機会を設けていただき、時事にあった色々な情報交換をしていただければ良いなあと思っている。 ・ 長浜市でも来年1月にこういう会議を、毎年続けてやらしていただいております、またこれを参考にさせていただいて、こちらの良いところを長浜に持ち帰らせていただいて、長浜の良いところをこちらで考えていただくとか、互いの良いところ参考にしてやらせていただきたいと思いますと思うので、よろしくお願ひしたい。 <p>4. 連絡事項</p> <p>連絡事項について説明。</p> <p>他に連絡事項について求める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 僕もよく中学校等に行くが、先生方には働き方改革を進めていただいている。 ・ これからタブレットとかどんどん入ってきて大変な中で、学校へ行ったら先生方も色々なことがあって大変なのはわかるので、地域としてはPTAさんとか保護者の方にもしっかりしてもらわないといけないのだが、先生の負担にならないようにしてほしいなあというのがあって、先生の負担になるようなら地域で助けられることがあるのなら、素直に校長先生から言ってほしいなあと思っている。 <p>ありがとうございます。</p> <p>5. 閉会</p> <p>閉会のあいさつ</p>
委員長	
事務局	
委員長	
委員	
教育長	
委員長	
副委員長	